

奈良県における取り組み

1. 本県の農業産地は、カキ、キク、茶など全国に誇れる産地がある一方、全体的に小規模であるものの、都市近郊であるメリットを生かしながら特徴のある産地を形成している。
2. 県では、マーケティング・コスト戦略に基づき、将来の成長品目として育成を図る大和野菜等の「チャレンジ品目」や、今後とも本県農業を牽引するイチゴ・柿・茶・キク等を「リーディング品目」として重点化し、高品質化、高付加価値化によるブランド化とロットの確保を図るとともに、首都圏等での販路開拓に取り組んでいる。併せて、昨年度から品質で県産農畜産物を認証する「奈良県プレミアムセレクト」の取り組みを開始。
3. このため、県では、強い農業づくり交付金及び産地パワーアップ事業を活用し産地の競争力強化に努めているところ。

【活用事例】

平成27年度（平群町）

- ・花き集出荷場の施設整備
- ・強い農業づくり交付金
- ・事業費：130百万円

平群町は夏秋期小ギク日本一の産地。低温貯留庫等の整備により、特に需要が高いお盆・彼岸時期の品質向上を図る。

H28年度生産額13億2千万円
(H26年度より4%増加)

※当産地から、第46回日本農業賞大賞（個人の部）受賞者が選出された。
(『平群の小菊』という地域ブランドをトップクラスに押し上げた功績等が認められた。)



平成28年度(五條市)

- ・柿選果場機能向上施設整備
- ・産地パワーアップ事業
- ・事業費:787百万円

本県は全国2位の柿産地。ハウス柿については全国1位。選果ラインの増強と新たに非破壊糖度センサー等を設置し、販売額アップとさらなるブランド化を図る。また、選果場の稼働の時間にも余裕ができた。

H29年7月 ハウス柿の選果から稼働開始



平成29年度 産地パワーアップ事業(予定)

- イチゴ「古都華」産地への支援
- ・事業費:20百万円(奈良市)

本県イチゴの生産量は、近畿で最も多い。最近は、新規就農者による生産が増えつつある。「古都華」は、本県開発品種で県としてブランド化を図っている品種。面積拡大を図るため、本事業を活用し、若手農業者の組織に対して支援を実施。



古都華の産地への支援



- 茶産地への支援(奈良市、山添村)

- ・事業費:325百万円(奈良市) 140百万円(山添村)

本県茶の生産量は、全国7位。高級茶(てん茶)への転換や高機能の乗用摘採機等への支援を行い、大和茶産地の収益力向上を図る。



てん茶工場等への支援
(写真はイメージ)



【関係市町村】 県内39市町村

国にお願いすること

予算の確保

- ・強い農業づくり交付金については、前年以上の予算要求をしていただいたが、今後も、攻めの農林水産業の実現に向け、足腰の強い農業づくりを推進するためには、ハード・ソフト一体的な支援が必要。計画的に産地支援を行えるよう、ソフト事業を主に支援する産地パワーアップ事業についても**十分な予算の確保をお願いする。**